

## 質問・回答（抜粋）

Q 1 : 空き店舗の利活用は、カフェや飲食が多いようですが、珍しい事例などあれば教えていただけますか。

A 1 : 飲食でも福祉やアクティビティ、ゲストハウスなどの付加価値を加えた店舗が飯能でも動き出しています。また、コワーキング・シェアスペースなどによりさまざまな人が日常的に利用することにより、利用者やその周辺への繋がりからポスター展のような新たな取り組みが生まれ、まちに還元されています。

Q 2 : これからのまちづくりは、行政だけではなく市民と事業者も協力していくことが大事なのかと思えます。官民で連携していくにはどのようなことから始めることが大切ですか。

A 2 : 市としてもこれからのまちづくりは行政だけではなく、市民の皆様や市内事業者の皆様が、主体的に活動する、活気に満ち溢れたまちづくりが、まちなかの活性化、賑わいの創出に繋がっていくと考えており、そのことをまちづくりビジョンにも盛り込んでいきます。

Q 3 : 空き店舗の活用というと、カフェや飲食店をやりがちですが、赤井さんが最初に、AKAIFACTORYでクリエイターの居場所を作ったのはなぜでしょう。

A 3 : 自分の夢として「アートに関わる仕事がしたい」とずっと思っていて、それをアトリエを提供するという形で実現しました。

Q 4 : 学校跡地を活用する場合、耐震等の問題は無かったのでしょうか。修繕等の予算はどのように工面をされていたのでしょうか。

A 4 : 既に耐震改修後のものであることを確認してから活用しました（山形の事例）。

Q 5 : 白須リーダーの概要説明、素晴らしいです。このシンポジウムの存在を昨日知りました。ダメ元精神で受付に来たら、入場がOKでした。ありがとうございます。質問です。市の広報でPRはされていたのでしょうか。

A 5 : 広報3月号及び市ホームページに掲載していました。また、チラシの配架やポスターの掲示を駅サービスコーナーや市内金融機関で行ってありました。

Q 6 : 具体的に市民ができることを、参画方法、行動に移す方法などを教えて欲しい。

A 6 : まちづくりには、市民の皆様や市内事業者の皆様の参画が重要であると考えています。中心市街地の賑わいや市内経済の発展のために、皆様との「対話」を惜しまず、皆様の参画に繋がるように進めてまいります。

Q 7 : 久下六道の新しい道路には、マルシェなどを設置できるスペースなどの計画はあるのですか？

A 7 : マルシェといった具体的な計画はまだありませんが、久下六道線の整備に関しては、まちづくりにおいて重要となる5つの視点のうち、特に「にぎわいづくり」と「安全安心・防災減災」の2つの視点が、ビジョンの方向性とそれとをつなぐ施策にあたりますので、関連づけて進めていきたいと考えています。

Q 8 : 道路拡幅には、国費を充てないと厳しい財政状況では厳しいと思います。大阪の社会実験がありました。実験結果を踏まえた道路設計を検討しているとのことでした。この場合、国費が充てられないケースもあるかと思いますが、市の単費で実施することも想定しているのでしょうか。

A 8 : 国費が充てられる事業で取り組む予定です。

Q 9 : 街の中心と吾野等の林間部との相互循環を目的としているようですが、都心から人を呼び込む観点はないのですか。

A 9 : 本市は交流人口と定住人口の拡大を目標としておりますので、ビジョンには都心から人を呼び込む観点も含まれています。

Q 10 : まちなかに残る歴史的建造物を保存し活用していく施策が出来ないでしょうか。

A 10 : まちづくりビジョンを策定する中でも検討を行う予定です。

Q 11 : そう！少し離れていても、市営駐車場があればだいぶ中心部の景色が変わるとずっと思っています。今後市営駐車場を作る計画はありますか。

A 11 : 今のところ計画の予定はありません。

**Q 1 2 : 登壇者のみなさま、こんなに、面白い人たちがいることが嬉しく思えます。みなさんのことが知れるメディアはありますか。**

**A 1 2 : 飯能エリアの魅力を発信し、繰り返し訪れる人を増やし、飯能エリアへの移住者を増やしていくことを目的としたローカルメディア「はんのーと」に様々な市民の方々が登場しておりますので、ぜひご覧ください。**